

いろとりどりの日々を、私たちは生きている。

このたび九州地方で発生した一連の地震において被害に遭われた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

混声合唱団ブルーメンクランツ第13回演奏会のテーマは「いろとりどりのうた」。

古今東西、「色」に関わりのある作品を集めました。

人の力の及ばぬ出来事や、大小の悩みに直面しながらも、いろとりどりの日々を生きることができることへの感謝。そして全ての人にそういった日々があるようにという願いを、この演奏会を通じてお伝えできたらと思います。

R. ホワイト 《光にして日なるキリスト》 その3

英国のホワイト[1538-1574]による、ラテン語の詞による4曲構成の作品から、今回は「3」のみを演奏します。

私たちが「色」を見ることができるのは光があるからこそ。

いま闇の中にある人にも、いつか光が届き、心を安んじる日が来ることを願い、オープニングとして歌います。

信長 貴富 混声合唱曲集 《いろとりどりのうた》(詩: 川崎 洋)

「今回は敢えてエンターテインメント的な要素を重視しました。」(信長氏本人による楽譜のまえがきより)

川崎 洋のウィットに富んだいろとりどりの詩に、信長 貴富[1971-]ならではの親しみやすい音楽をつけた8曲の作品から、6曲を抜粋し、演出をつけたシアターピースとしてお届けします。

P. ウースベルク 《タベ》

弱冠29歳にして俳優・作曲家・合唱指揮者として国際的に活躍するエストニアのペルト・ウースベルク[1986-]による、ア・カペラ合唱作品。空を赤色に染めながら訪れる夕暮れの時間を、穏やかに描写しています。

W. トッド 《Mass in Blue》

クラシックにジャズの要素を取り入れた音楽といえば、ガーシュウインの《ラブソディ・イン・ブルー》が

まず挙がるでしょう。では、もしミサ曲にジャズの要素を取り入れたら？

そのようなコンセプトで作曲されたのが、トッド[1970- 英]によるこの《Mass in Blue》です。

「人と人を出会わせる音楽」と作曲家自身が呼ぶ、「ミサ・イン・ブルー」の世界をどうぞお楽しみください。

G. ヴェルディ 歌劇《ナブッコ》より 〈行け、我が思いよ、金色の翼に乗って〉

エピローグには、イタリアでは「第2の国歌」とも呼ばれる、ヴェルディ[1813-1901]による名曲中の名曲をお届けします。

歌劇《ナブッコ》で、バビロニアに敗れたヘブライの人々が金色の翼に託したものは、祖国への愛。

国も時代も異なりますが、その歌に込められた想いは、きっと私たちにも困難に立ち向かう勇気を与えてくれるはずです。

混声合唱団ブルーメンクランツ



2003年3月創団の社会人混声合唱団。常任指揮者小林昭裕(合唱指揮者・バリトン歌手)、ピアニスト久住綾子を含め、アフオー世代を中心とした働き盛りのメンバーで構成。アマチュアながら、演奏技術と芸術性の向上に真剣に取り組み、積極的に「同世代のプロ奏者との共演」「同世代の作曲家への作品委嘱」「本邦初演/演奏機会希少作品の発掘」「演出つきステージ」など、オーソドックスな合唱コンサートのあり方にこだわらないステージ構成への挑戦を続けている。創団以来、6月(たまに7月)に定期演奏会を開催し、今回は13回目となる。仕事にも趣味にも本気で取り組むメンバーの情熱が生み出す完成度の高いステージは、毎回来場者より大好評を博している。

会場のご案内

慶應義塾大学 日吉キャンパス
協生館 2F 藤原記念ホール

〒223-8526
神奈川県横浜市港北区
日吉四丁目 1番1号

東急東横線・東急目黒線・
横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉」駅 徒歩1分

※お車でお越しの際は、
協生館地下2階の有料駐車場(210円/30分)
をご利用いただけます。
台数に限りがございますため、
満車の際はご容赦ください。

